

観光新時代へ

「たった100万年のおくりもの」
～陰と陽の交わる場所真庭～

Present of just One million Years

真庭市観光戦略会議ワーキンググループによる「ブランドコンセプト」

観光産業は、かねてよりサービス業だけでなく、農業や林業、製造業までまたがる幅の広い産業と言われてきました。

取り組み方次第では、子どもからお年寄りまでたくさん地域住民も観光に関わることができ、何気ない自然や生活の中に魅力を再認識したり、人と人とのつながりが強くなるなど、産業以外にも色々な形で地域に利益をもたらす可能性を秘めています。

地域の事業者や住民が参加し、地域内で利益を共有する「観光地域づくり」と呼ばれる新しい取り組みが各地で巻き起こっています。

今回は真庭市でも動き出している「観光地域づくり」について紹介していきます。

地域資源を観光に生かす 「観光地域づくり」

観光産業への期待の高まりや観光に対する認識の変化など、観光をめぐる社会的環境は大きく変化しています。

従来のような観光名所を巡る旅行から、地域資源を生かして活動する人たちの日常を楽しむ旅への人気が高まっています。特に外国人旅行者にとって、日本各地の自然や歴史、生活や文化は魅力的です。今後、ますます増えると予想される外国人旅行者の需要に応えるためにも、「観光地域づくり」には大きな期待が寄せられています。

市民参加で観光戦略策定

こうしたなか、真庭市においては、「観光地域づくり」を柱とした今後の方針を策定するため、平成28年10月から翌年2月までの間に6回にわたって、観光や地域活動に関わる市民を中心としたワーキンググループメンバー93人による熱い討議が行われました。

「みんなが誇れる真庭にしたい」「人と人とのつながりがある地域社会を作りたい」

これらの理想を掲げ、その実現に向けた具体的計画を盛り込んだ「真庭市観光戦略」は策定されました。



平成29年2月 第6回観光戦略策定ワークショップ参加者

真庭の魅力が詰まった ブランドコンセプトと 滞在プログラム

策定された観光戦略に基づいて、昨年8月から真庭市観光戦略会議ワーキンググループによる真庭市の観光資源の独自性を示す「ブランドコンセプト」と、お客様に市内を周遊しながら長時間滞在してもらうための「滞在プログラム」づくりが始まりました。

広い面積を有し、多様な自然環境に恵まれる真庭市には、縄文時代から人々が暮らし、気候風土に応じた生活文化を育んできました。そのため、各地域ごとに特徴があり、祭り

や行事だけでなく食文化についても、保存食や行事食がたくさん伝えられています。

そんな多様な魅力に溢れた真庭市のブランドコンセプトを定め、そのコンセプトに相應しい滞在プログラムを形にしていくという作業は困難を極めました。しかし、市内各地から集結したワーキンググループのメンバーは知恵を出し合い、「たった100万年のおくりもの」陰と陽の交わりと「1000万年のおくりもの」ツアードのおくりもの編2018という滞在プログラムを作り上げました。

2月4日から5日にかけて開催されたモニターツアーは、北房ぶり市から始まり、ひるぜん雪恋まつり、湯原温泉、山乗溪谷のスノーシュー探検といった各地域の文化や自然を味わうことができる内容。

参加者からは「初めてぶり市に行けてよかった」「蒜山の雪景色が素晴らしいかった」といった感想や、温かい歓迎に関心の声、心こもったおもてなしへの感謝の言葉が寄せられました。また一方では、ホームページからの申込方法が分かりにくかったことや公共交通アクセスの不便さ、ツアー中の案内方法やタイムスケジュール改善についての意見もありました。しかし、今後の本格実施に向けた最初の一步としては上々の滑り出しとなりました。

「観光」を 考え続けた2年間

あつという間の2年でしたが、その間、どつぱりと真庭の観光について考える機会をいただきました。改めて真庭市を見てみると、各地域それぞれ特徴がすごくあります。清水先生という一流のアドバイザーの力添えもあり、なんとか滞在プログラムとブランドコンセプトを作ることができ、一つの節目を迎えることができました。苦勞もしましたが、たくさんの人とご縁をいただいき充実した日々でした。今後もある議論を重ね、様々な切り口で地域資源を見つめなおしていきたいと思えます。



真庭市観光戦略会議ワーキンググループ(写真左から)
副座長 和田ひろみさん 座長 石賀幹浩さん 副座長 岡本康治さん

「観光地域づくり」推進を担う新組織設立に向け

平成29年度の市内の観光関連の団体は行政を含め、観光連盟、観光協会、旅館協同組合など9団体。それぞれの活動内容や役割などは異なっていて、市全体の観光事業を推進する体系的な体制とはなっていないませんでした。

「観光地域づくり」を推進していくためには、地域の多彩な資源や人材をつなぎ、観光客の多様なニーズに応えたプランを立案し発信することができ組織が必要不可欠です。

その役割を担う新組織設立に向け、昨年8月「真庭版DMO」(※設立準備会)が発足。市内の観光関係団体、真庭市観光戦略会議ワーキンググループ、真庭市や新庄村の行政機関など様々な団体の代表者など25人が委員となり、「目的を達成するために必要なのはどのような組織なのか」など、熱のこもった検討が始まりました。

「観光地域づくり」の要 真庭観光局の設立が決定

限られた人材や財源をどう生かし、収益に結び付けるのか。観光で得たお金が地域内で循環していくためには、どんな仕組みが必要か。全国で競争が激化する観光分野で



の「真庭」の生き残りをかけ、各団体の利害を超えた議論が続けられました。

6回に及ぶ設立準備会での議論を経て、ついに「真庭観光局」の設立とその事業内容などが決まりました。

真庭観光局が目指すもの

「真庭観光局」は、変化の速い観光のトレンドに即応できる組織として、観光プロモーション、マーケティングはもちろん、広域連携や外国人旅行者の受入など幅広い役割を担うこととなります。

またこれからは時間をかけその土地を楽しむ「滞在交流型」の観光を好む海外や首都圏などの新たなターゲットに対し、多彩な真庭の自然や文化といった地域資源に磨きをかけてつくる真庭オリジナルの滞在プログラムを提供するとともに、真庭らしさの詰まった魅力ある特産品開発のために地域の人や物をコーディネートしていかねばなりません。

また、設立準備会で繰り返し議論されてきた交通の問題を解消すべく、岡山駅や岡山空港と真庭を結ぶ直通バスも実証運行する予定です。

観光を手段に地域の様々な課題解決にも取り組みながら、市民にとって「誇らしく、住み続けたいまち」、観光客にとっては「何度も訪れたいまち」の実現を目指し、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに取り組んでいきます。

DMO… destination Management/Marketing Organization の頭字語。地域の総合的なプランニング、プロモーションやマーケティングなどを行い、「観光地域づくり」を推進する法人。

経営の観点で 地域に潤いを



一般社団法人真庭観光局
理事長 佐山 修一さん

従来の「地域づくり」や「観光」の議論の中には「お金」の話がきちんとできていないことが多いと思います。何を仕掛ければ真庭のどこにお金落ちるのか、どういう仕組みを構築すれば地域が自立していけるのか数値化して分析し、自力で「稼ぐ」ことができない地域づくりに経営という観念でしっかり取り組んでいきます。

また、若い人たちに、自分の地域をどう盛り上げていきたいのかを、どんどん発言してもらい、彼らが活動しやすい体制を整え、次世代の育成をしていくことも私たちの重要な役目だと考えています。

二宮尊徳の言葉の中に「全ての商売は、売って喜び、買って喜ぶようにすべし。売って喜び買って喜ばざるは道にあらず」とあるように、住む人、来る人みんなが笑顔になるような取り組みが増えていけば、自然に利益はついてくるものだと考えています。

真庭観光局の主要な事業



1 目的達成のための合意形成

- ・観光戦略会議の実施
- ・ワーキンググループ設置
- ・セミナーの開催

2 マーケティング調査

- ・観光客満足度調査
- ・ウェブサイトのアクセス状況調査 など

3 ブランディングとプロモーション

- ・ポータルサイトの作成
- ・ガイドブックなど作成
- ・海外プロモーション など

4 受入環境整備

- ・観光案内所の運営
- ・Wi-Fi利用環境の整備

5 滞在交流プログラム

- ・滞在交流プログラムやツアーの企画・販売

6 二次交通の準備

- ・岡山⇄真庭間直通バス実証運行
- ・観光タクシーの運行など

7 域内経済循環の仕組みづくり

- ・特産品の企画や開発のコーディネート
- ・ブランディング など

8 担い手となる人材の育成

- ・観光地域づくりマネージャー人材の育成
- ・シンポジウム開催 など



一般社団法人 真庭観光局

住所 真庭市勝山654
TEL0867-45-7111 (FAX7112)

平成30年4月1日設立

理事長 佐山修一 (オーティス(株)代表取締役社長)
副理事長 吉永忠洋 (真庭市副市長)
副理事長 宮田守之 (勝山観光協会 会長)
事務局 9人 (内3人は真庭市役所から出向)



歴史 × 観光 = 文化の継承

社の式内八社

中世式内八社ボランティアガイドが地元の歴史を説明しながら案内。蒜山郷土博物館の前原館長を招き、歴史講座を受講し磨きをかけます。

バイオマス × 観光 = 資源循環

バイオマスツアー真庭

10周年を迎えたバイオマスツアー真庭。木質バイオマスコースに加え、バイオマス循環農業コースが開設されました。

これからも議論の継続を

日本の人口減少はいよいよ激しくなり、国内の観光客はどんどん減ってきています。その中で、いかに外国人観光客を含めたお客様を獲得するか、そのために、どんな真庭にしていくか、今後何に取り組みかというのは極めて重要です。

「観光地域づくり」に取り組むために重要なポイントは、地元の生業である農林業、ものづくり、地場の商店街、そういったものの担い手の人たちがしっかり稼ぐことができ、後継者が育っていく、そのために、何ができるかということを考えることです。

例えば、市外から来た観光客が、単にイベントだけで帰ってしまうのではなく、蒜山で楽しんだら、湯原に泊まって、その後、久世や勝山の商店街を回ってというような町全体を楽しむような観光を提供し、あちこちでお金を落としていただく、このような仕組みづくりには先ず取り組む必要があります。

もうひとつ重要なことは、観光客の目を通じ、真庭の良さを再認識することです。自分たちが暮らす真庭はやっぱり良いところで、色んな資源が豊富で、コミュニティが豊かで、これからも住み続けたい町であるという確信を持つということ。

だから今回、真庭の皆さんには、どういう真庭をつくるかが理想なのか、現状はどうなのか、現状と理想のギャップを埋めるためにはどういう課

題があるのか、それを観光でどのように解決するのか、そして具体的に何に取り組んでいくのか、という一連のワークショップから取り組んでいただきました。

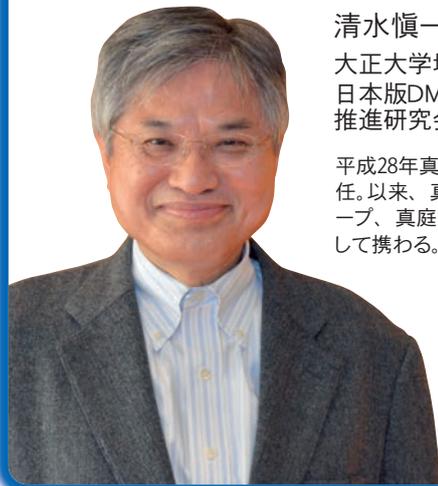
その一方で、真庭版DMO設立準備会を立ち上げ、「観光地域づくり」のかけ取り役となる推進組織の設立についても議論してきました。

住民の暮らしに根ざした「観光地域づくり」に至るまでにはまだまだこれから地に着いた議論が必要で、今後もこのような議論の場を持続し、実行できるものから取り組んでいくということが大事です。

清水慎一さん

大正大学地域構想研究所 教授
日本版DMO(観光地域づくりプラットフォーム)推進研究会 顧問

平成28年真庭市観光戦略策定検討会座長に就任。以来、真庭市観光戦略会議ワーキンググループ、真庭版DMO設立準備会にアドバイザーとして携わる。





農家 × 観光 = 農泊

北房農泊ツアー

北房農泊推進協議会が地域活性化のため、モニターツアーを開催し、滞在型観光や外国人観光客獲得を図っています。



山焼き × 観光 = 里山保全

美甘山焼きプロジェクト

景観保全のため、一度は途絶えた山焼きを実施。1カ月後に焼き後に生えた山菜を採って食するツアーを開催しました。



「たった100万年のおくりもの」
 陰と陽の交わるころ真庭

かつて、蒜山は湖だった。
 激しい火山活動によって、100万年
 前に誕生した蒜山三座。前後して、蒜山
 湖が生まれたという。

さらに時を経て、35万年前に大山が噴
 火。ダイナミックな地形の変化が起こり、
 山陰へ流れていた川が、山陽へとその流
 れを変えた。蒜山湖は消滅したが、山陰
 と山陽の分岐点となり、多様性を受け入
 れた「ここだけ」の文化が生まれた。

悠久の時をかけて育まれた、真庭の清
 らかな水は、蒜山湖に緑をもつ。湯原温泉、
 勝山の町並み、久世のにぎわい。流れと
 ともに美しい景観と文化を生みだして
 いった。

そしてその水で、人々はみずみずしい
 野菜をつくり、果物を育み、酒をこしら
 えた。ひとつひとつの味覚すべてに、神
 秘的ともいえる「100万年の深み」が
 感じられる。まさに100万年のギフト
 である。

否、まだたった100万年に過ぎない。
 蒜山に広がる夜明け前の雲海が、かつて
 の蒜山湖を呼び起こさせる。
 これから先もずっと、あなたへの「お
 くりもの」であるように。

真庭市観光戦略会議
 ワーキンググループ